

## やはり紙おむつが高すぎる件

2024年10月30日

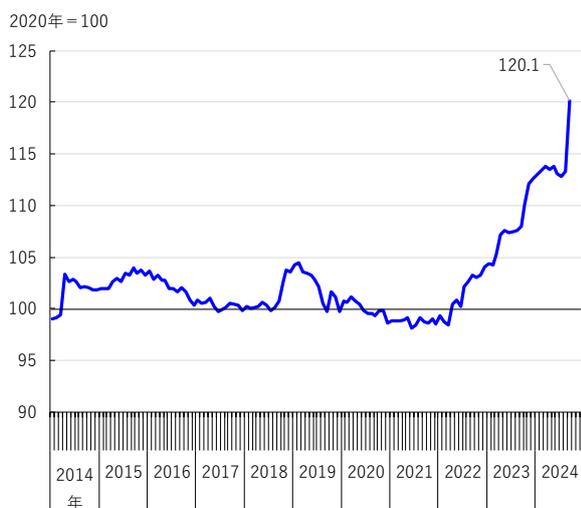
調査部 上席主任研究員 遠藤 裕基

### 乳幼児用紙おむつは2020年比で2割高の水準が続く

筆者は今年、新たな家族を迎えた。赤ちゃんの可愛さは何物にも代え難いものである。ただ、最近の紙おむつ価格の高さにはとても困っている。乳児の場合、個人差はあるものの、1日に10枚程度おむつを使うことになる。なお、わが家では、おしっこの後にすぐに替えないと泣き止まないため、現在10枚強/1日使っている。1日10枚使うと、1パックが4日～1週間でなくなるため、毎週毎週、紙おむつを購入することになる。実際には安い時にまとめ買いするので、部屋の一角に「紙おむつの山コーナー」ができる。これだけ高頻度で使うモノの価格が高くなると、当然、負担感は強い。もちろん、できる限り安い製品に切り替えるという選択肢もあるが、モノによって肌に合わないなど、製品との相性もあり、簡単に切り替えられないこともある。

実際のどれくらい高くなっているのかをみていこう。総務省「消費者物価指数」で紙おむつ（乳幼児用）の価格（2020年=100）をみると、2024年9月時点で120.1となっており、2020年比で2割高になっていることが分かる（図表1）。例えば、2020年に紙おむつ1パックの平均価格が切りよく1,500円だったとすると、足元では2割高（300円高）の1,800円にもなっているということである。前年比の数値も併せてみると、2022年に伸び率がプラス圏に転じ、2023年末か2024年初にかけて

図表1 紙おむつ（乳幼児用）の価格（指数）



出所：総務省「消費者物価指数」

図表2 紙おむつ（乳幼児用）の価格（前年比）



出所：総務省「消費者物価指数」

8%の高い伸び率となった。その後は、上昇率が一時的に鈍化したものの、2024年9月には前年比11.2%上昇と再加速している（図表2）。こうした紙おむつの価格上昇の背景には、原材料費や人件費、輸送費といったコスト上昇分の価格転嫁という側面があるため、これ自体はやむを得ない面もあるが、一消費者としてはなかなかつらいものである（製造メーカーを責めるつもりは毛頭ない）。

## 大人用の紙おむつと生理用ナプキンの価格も高いまま

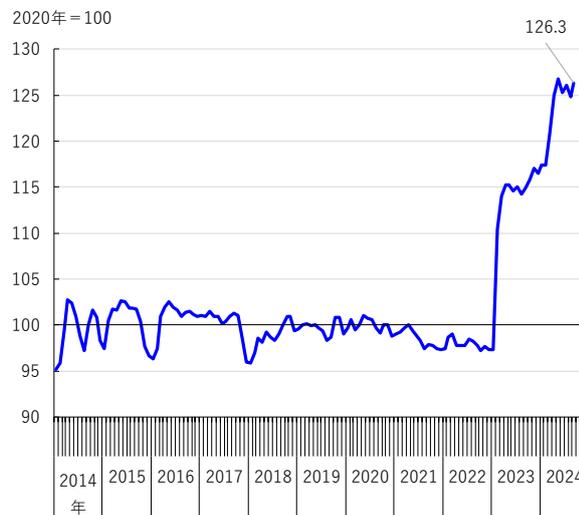
さて、紙おむつ（乳幼児用）だけではなく、ほぼ同様の製品ということで、紙おむつ（大人用）や生理用ナプキンの価格（2020年=100）もみると、2024年9月時点でいずれの品目も2020年比で2割高を超える水準となっている。両製品とも言うまでもなく使用頻度の高い品目であり、日々の購入による負担感は強いと考えられる（図表3、4）。紙おむつ（乳幼児用）も含め、こうした必需品については、現物支給やクーポン券（定額のクーポンで、それよりも高い製品の購入については、差額を自費で負担）の発行、消費税の軽減税率の適用などの政策的なサポートがあってもよいのではないだろうか<sup>1</sup>。

図表3 紙おむつ（大人用）の価格（指数）



出所：総務省「消費者物価指数」

図表4 生理用ナプキンの価格（指数）



出所：総務省「消費者物価指数」

<sup>1</sup> 紙おむつ（大人用）については、一定の条件を満たせば医療費控除の対象となる。詳しくは、[国税庁のウェブページ](#)を参照されたい。

## 執筆者紹介



遠藤 裕基（えんどう ゆうき）

浜銀総合研究所 調査部 上席主任研究員

神奈川県経済及び労働・雇用関連の調査業務を担当。

浜銀総合研究所では、景気動向に関するレポートなどの発行情報をメールにてお知らせしています。ご関心のある方は、下記のサイトより、「レポート更新情報お知らせメール」（無料）にご登録ください。

【URL】 [https://www.yokohama-ri.co.jp/html/inquiry/inquiry\\_repo.html?nno=5](https://www.yokohama-ri.co.jp/html/inquiry/inquiry_repo.html?nno=5)

本レポートの目的は情報提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載した内容は、レポート執筆時の情報に基づく浜銀総合研究所・調査部の見解であり、レポート発行後に予告なく変更することがあります。また、本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に際しては、お客さまご自身の判断にてお取扱いいただきますようお願いいたします。